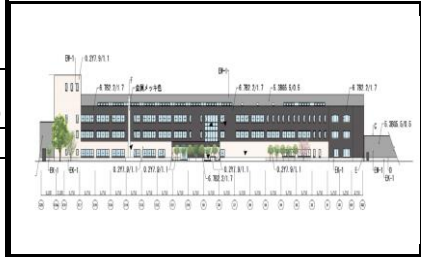




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	南車高基地工場棟改築ほか工事(1期工事) 南車高基地車庫棟改築ほか工事(2期工事) 南車高基地車庫棟・出入庫棟耐震改修工事(3期工事)	階数	地上3階、地下1階
建設地	北海道札幌市南区真駒内東町2丁目17-465の内、-493、-497、-574、-811、真駒内東町1丁目17-829、真駒内上町5丁目9-3	構造	S造
建物用途	工場	平均居住人員	232人
竣工年	2035年3月 予定	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
敷地面積	50,100㎡	評価の段階	実施設計段階評価
建築面積	14,828㎡	評価の実施日	2024年11月8日
延床面積	23,140㎡	作成者	吉田 勝彦
		確認日	2024年12月12日
		確認者	芝井 静男



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★ B-

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm] **0.94**

ZEB/ZEH-Mランク **非該当**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項

総合 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。		A 省エネルギー BEI=0.94。
B 省資源等 LGS使用している。 ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	C 緑化 特になし。	D 雪処理 特になし。

4 ほかの認証・評価制度の利用

(一財)住宅・建築SDGs推進センターのCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用	-				

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■環境品質Q = 25 × (Qのスコア - 1)、環境負荷L = 25 × (5 - LRのスコア)より算出

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築本ほか工事(2期工事)南車両基地車庫線・出入庫線耐震改修工事(3期工事)								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1	開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-
2	界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1	室温		-	-	-	-	-	-
2	外皮性能	省エネ	-	-	-	-	-	-
3	ゾーン別制御性		-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 屋光利用								
1	屋光率		-	-	-	-	-	-
2	方位別開口		-	-	-	-	-	-
3	屋光利用設備	省エネ	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策								
1	屋光制御	省エネ	-	-	-	-	-	-
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1	化学汚染物質		-	-	-	-	-	-
4.2 換気								
1	換気量		-	-	-	-	-	-
2	自然換気性能		-	-	-	-	-	-
3	取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	-	-

4.3 運用管理				-	-		-	
1	CO ₂ の監視		-	-	-		-	
2	喫煙の制御		-	-	-		-	
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.6
1 機能性				-	-		-	-
1.1 機能性・使いやすさ				-	-		-	
1	広さ・収納性		-	-	-		-	
2	高度情報通信設備対応		-	-	-		-	
3	バリアフリー計画		-	-	-		-	
1.2 心理性・快適性				-	-		-	
1	広さ感・景観		-	-	-		-	
2	リフレッシュスペース		-	-	-		-	
3	内装計画		-	-	-		-	
1.3 維持管理				-	-		-	
1	維持管理に配慮した設計		-	-	-		-	
2	維持管理用機能の確保		-	-	-		-	
2 耐用性・信頼性				2.8	0.50		-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		-	3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		-	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	-	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性				2.6	0.20		-	
1	空調・換気設備		-	3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		-	2.0	0.20		-	
3	電気設備		-	3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		-	3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		-	2.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				4.3	0.50		-	4.3
3.1 空間のゆとり				5.0	0.30		-	
1	階高のゆとり		3.9m以上	5.0	0.60		-	
2	空間の形状・自由さ		[壁長さ比率] <0.1	5.0	0.40		-	
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30		-	

3.3 設備の更新性				3.4	0.40		-	
1	空調配管の更新性		—	3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		—	3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		ケーブルラック内配線、配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		ケーブルラック内配線、配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		—	3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.57	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		緑化	—	1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		緑化	—	3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		雪処理	—	2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		省資源緑化	—	2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性								2.7
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	2.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ	BPI= 対象外 品確法= —	1.0	0.20		-	1.0
2 自然エネルギー利用		省エネ	—	3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネ	BEI= 0.94 —	2.3	0.50		-	2.3
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング	省エネ	—	3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—	3.0	0.50		-	
集合住宅の評価							-	
4.1	モニタリング	省エネ	—				-	
4.2	運用管理体制	省エネ	—				-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.20		-	3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、省水型機器(擬音、節水型便器など)などを用いている。	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.0	0.60		-	3.0
2.1 材料使用量の削減		省資源	—	2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		省資源	—	3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		省資源	—	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		省資源	—	3.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		省資源	—	2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		省資源	LGS使用している。	4.0	0.20		-	

3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20		-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		-	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
	1 消火剤	省資源	-	-	-		-	
	2 発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50		-	
	3 冷媒	省資源	-	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境					0.30		-	3.0
1	地球温暖化への配慮	省資源	-	3.1	0.33		-	3.1
2	地域環境への配慮			2.8	0.33		-	2.8
	2.1 大気汚染防止	省資源	-	3.0	0.25		-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 緑化 雪処理	-	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25		-	
	1 雨水排水負荷低減	省資源	-	3.0	0.25		-	
	2 汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
	3 交通負荷抑制		-	3.0	0.25		-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 雪処理	-	1.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
	1 騒音		-	3.0	1.00		-	
	2 振動		-	-	-		-	
	3 悪臭		-	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
	1 風害の抑制		-	3.0	0.70		-	
	2 砂塵の抑制		-		-		-	
	3 日照阻害の抑制		-	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。	5.0	0.70		-	
	2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2021v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2021 (ver.1.0)

1 建 南車両基地工場棟改築ほか工事(1期工事)南車両基地車庫棟改築ほか工事(2期工事)南車両基地車庫棟・出入庫棟耐震改修工事(3期工事)		BEE	0.7	BEEランク	B-
建物名称	南車両基地工場棟改築ほか工事(1期工事)南車両基地車庫棟改築ほか工事(2期工事)南車両基地車庫棟・出入庫棟耐震改修工事(3期工事)				
建物用途	工場				
延床面積	23,139.7 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★☆☆☆☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア	
A 省エネルギー (最高点 20.0 最低点 5.6)	合計 9.0点 / 20.0点
Q1 温熱環境	スコア 0.0 / 0.0 LR1 建物外皮の熱負荷抑制
Q1 光・視環境	スコア 0.0 / 0.0 LR1 自然エネルギー利用
	LR1 設備システムの高効率化
	LR1 効率的運用
B 省資源等 (最高点 27.2 最低点 8.6)	合計 15.7点 / 27.2点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 1.5 / 2.6 LR2 非再生性資源の使用量削減
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.7 / 4.3 LR2 汚染物質含有材料の使用回避
	LR3 地球温暖化への配慮
	LR3 地域環境への配慮
C 緑化 (最高点 26.8 最低点 5.4)	合計 11.8点 / 26.8点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 1.7 / 8.6 LR3 地域環境への配慮
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 6.9 / 11.4
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.7 / 4.3
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)	合計 0.0点 / 3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0 / 1.0 LR3 地域環境への配慮

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■重点項目の**最高**点は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数■重点項目の**最低**点は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数